

科 目 名	芸術Ⅰ（書道） ArtⅠ（Calligraphy）			担当教員	正田幸子		
学 年	1年	学 期	後期	履修条件	必修	単位数	1
分 野	一般	授業形式	実技	科目番号	16220013	単位区別	履修
学習目標	国語科書写では、文字を正しく整えて書くことを目標としたが、芸術科書道では、書写の能力をさらに高め、書の美を追求していくことを目指す。 書の表現と鑑賞の基礎能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、芸術としての書の美を学ばせ、書を愛好する心情を養う。						
進め方	・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。 ・表現力を高め豊かにするには、すぐれた書を鑑賞し感性を養うことを心がけるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.	書の美を求めて	(1)	書の美とは何かを考えさせる A3:1			
	2.	楷書の学習の基本	(2)	書の基本形を把握する B2:1			
	3.	厳正な楷書と温雅な楷書 九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の鑑賞と臨書	(2)	古典の臨書を通して、用筆、運筆、点画の形や線質、字形など表現技法を学習する。 B1:1			
	4.	重厚な楷書と軽快な楷書 建中告身帖と雁塔聖教序の鑑賞と臨書	(2)				

	5.	行書の特徴	(1)	創作の手順を理解し作品づくりをする。 B2:1			
	6.	蘭亭序の鑑賞	(1)				
	7.	蘭亭序の臨書（半紙）	(2)				
	8.	蘭亭序の臨書（画仙紙半切）	(4)				

	9.	行書による創作	(2)	「いろは歌」により基本的なものを身につける。 B1:1			
	10.	平仮名の単体	(2)				
	11.	変体仮名	(3)				

12.	連綿	(2)	連綿の方法や仮名の流動美を理解する。 A1:3				
13.	漢字仮名交じりの書の学習	(2)	漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づける B2:1				
14.	古名跡を応用しての表現	(2)					
15.	用筆・運筆および用具・用材の工夫	(2)					
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教 材	教科書：角井博他著「書道Ⅰ」 教育出版						
備 考	特になし						